2023年3月2日(木)18:00
情報公開

プレスリリース

ウィーン芸術週間 委嘱作品 / チェルフィッチュ2023年新作

チェルフィッチュ × 藤倉大 with クラングフォルム・ウィーン

リビングルームのメタモルフォーシス

宣伝美術：岡崎真理子（REFLECTA, Inc.）

画像一式：https://x.gd/lKWfd

チェルフィッチュの次回新作では、**ウィーン芸術週間から委嘱**を受け、**作曲家の藤倉大**とのコラボレーションによる**"新たな音楽劇"**を創作、世界トップレベルの現代音楽アンサンブルである**クラングフォルム・ウィーン**とともに発表します。**2023年ウィーンでの初演・欧州ツアー**を経て、**2024年には日本公演**も予定。チェルフィッチュおよび藤倉大の新たな挑戦に、乞うご期待！

ウィーン芸術週間 / Wiener Festwochen（ウィーン）　★世界初演
2023年5月13日(土) ～ 5月15日(月)

ヘレンハウゼン芸術祭 / KunstFestSpiele Herrenhausen（ハノーファー）
2023年5月19日(金) ～ 5月20日(土)

他、6月オランダ公演を予定（3月中旬情報公開）

お問い合わせ
＊本作についてのお問い合わせ等は下記までご連絡ください。

株式会社precog（プリコグ）【平日10:00～19:00】
担当：水野恵美、武田侑子、平野みなの
MAIL：info@precog-jp.net　TEL：03-6825-1223　FAX：03-6421-2744

リハーサル期間（取材受入希望時期）：3月6日～5月4日（@横浜）

チェルフィッチュ

Web: https://chelfitsch.net
Instagram [3/2(木)開設]: @chelfitsch_toshikiokada　Twitter: @chelfitsch　Facebook: chelfitsch
（近日、チェルフィッチュ/岡田利規noteも開設予定！）

概要 / コメント

ウィーン芸術週間からの委嘱により、チェルフィッチュ／岡田利規と藤倉大が初めてコラボレートし、”新たな音楽劇”の創出に挑む。
演劇と音楽、それぞれの分野で挑戦的な創作を続け、近年特にその活躍が目覚ましい二人が、ついに邂逅。これまで領域横断的なコラボレーションを数多く重ねている岡田と藤倉による共同作業では、両者の“コラボ力”が本領発揮され、これまでの音楽劇やオペラのように演劇と音楽のどちらかが主役となるようなものではない、演劇の上演でもあり音楽の演奏会でもある、まだ見ぬ新たなものを生み出そうとしている。岡田のテキストと藤倉の音楽、俳優の演技と演奏者の演奏、それらが舞台上に対等な関係で同時に現れるとき、観客の目前には一体何が立ち上がるのか……。
本作では、チェルフィッチュの俳優陣６名と、現代音楽アンサンブルのクラングフォルム・ウィーンの演奏者７名によって、作品が紡がれる。住む家をいきなり追い出されそうになる家族の物語から始まるが、その家自体が人智の及ばない強大な力によって跡形もなくなることによって、その問題は解決される。そして、人間の世界の外側に広がる圧倒的な存在が上演を支配し、まったく新しい世界が舞台上に立ち現れる。
チェルフィッチュの旧作『消しゴム山』に続き人間中心主義から逸脱した世界を描く本作。前回は美術家・彫刻家の金氏徹平とともに人とモノの新たな関係性を探求したが、今回は藤倉とともに演劇と音楽の新しい関係を生み出すことに取り組む。

岡田利規（作・演出）

藤倉大さんの音楽はとにかく強くて美しい。それと共存、併存する演劇を、このプロダクションでは作り上げようとしています。それはおのずと、圧倒的に新しいありようの音楽劇になるでしょう。
圧倒的に新しいありよう、とはおそらく、音楽と身体表現の関係やバランスのありようが圧倒的に新しいということです。
音楽と劇とを新しい関係、新しいバランスのもとに併置したこの、まもなく作られる代物は、音楽劇、という呼称では明らかにまかないきれてない、なにかとんでもない代物と、きっとなるでしょう。このような大それた野心を持ってクリエーションに取り組みます。

藤倉大（作曲）

この作品では、音楽と演劇が対等にある音楽劇を、岡田利規さんと目指して作った。音楽と演劇が対等にある、というのはどういう事なのだろうか。
僕は今まで、映画の為の音楽を、映画方面から頼まれては、デモを作曲した時点で「音楽が強すぎる」と言われて、クビになることばかりだった。ところが岡田さんとは、いつも平和に、静かに、そして、オープンに、完全なるコラボレーションができた。映画をクビにされた経験のある僕は、「これって音楽強すぎますか？」など最初は岡田さんに聞いたものだったが、岡田さんは「そんなことは絶対にあり得ないので、藤倉さんが良いと思う音楽を作ってください」という後押しをされた。岡田さんも、「音楽がこう来るのか、だったら台本は、、、演出はこういう感じで試してみよう！」など、Zoomで役者さん達の演技を見ながらリアルタイムで、僕のスタジオで作られる音楽と同時に、何十回というワークショップを一緒に重ねてテキストを書かれたと思う。僕も、音楽が演技をコントロールするようなことは一切しないように心がけて音楽を作っていった。
音楽が完全支配するオペラとは、全く違う。それでいて、いつも映像の召し使い、みたいな映画音楽とも絶対的に違う。全く新しい、視覚と聴覚の融合による物語の語り方を発見できたと思う。
こうしてコラボレーションで作られた新しい舞台音楽、そしてその楽譜。それらが、役者さん達と演奏家達とのパフォーマンスで、どう化学反応を起こすか、今から楽しみだ。

ウィーン芸術週間

毎年５～６月にオーストリアの首都・ウィーンで開催されるヨーロッパ最大級の芸術祭、ウィーン芸術週間。世界中の演劇、ダンス、オペラなどの様々な芸術作品が集められ上演されている。チェルフィッチュは『フリータイム』（2008年）の共同製作以来、『ホットペッパー、クーラー、そして、お別れの挨拶』（2010年）、『ゾウガメのソニックライフ』（2011年）、『三月の5日間』リクリエーション（2019年）、『消しゴム山』（2021年）を上演。
ウィーン芸術週間はこれまで、現代音楽アンサンブルのクラングフォルム・ウィーンとのコラボレーション企画として、フランスを代表する演出家・ビジュアルアーティストのフィリップ・ケーヌや、世界的な注目を集める振付家マレーネ・モンテイロ・フレイタスなどに新作を委嘱してきた。2023年はチェルフィッチュが選ばれ、藤倉大とのコラボレーションの実現へと至った。
芸術総監督のクリストフ・スラフマイルダーは、前職のクンステン・フェスティバル・デザール芸術監督時代に『三月の5日間』を招聘しチェルフィッチュ／岡田利規の初の海外進出を後押しし、その後も『フリータイム』『地面と床』『部屋に流れる時間の旅』『三月の5日間』リクリエーションと、数多くの作品に共同製作パートナーとして関与し、チェルフィッチュの活動を長年にわたり支えてきた。
ウィーン芸術週間（Wiener Festwochen）ウェブサイト　https://www.festwochen.at

クリストフ・スラフマイルダー（ウィーン芸術週間 芸術総監督）からのコメント

岡田利規と長年にわたり協働してきた者として、彼の類稀なる劇作や演出の様式が新しい音楽とどのように対話を始めるのか、目撃するのを楽しみにしています。特に興味をそそられるのは、リズムや沈黙、音の揺らぎといった特徴的な要素を、身体や言葉、発話に取り入れる岡田の作品が、密接なコラボレーションを通じて書かれた楽譜と組み合わさったときに、どのような相互作用を起こすかについてです。この点を念頭に、岡田に藤倉大を紹介しました。藤倉は、岡田と同じ世代を代表する日本の作曲家の一人です。音楽の伝統的な側面を大切にしながら、実験的なアプローチにも積極的な藤倉は、先駆的な芸術ビジョンを持つ岡田にとって理想的な協働相手でしょう。楽譜と脚本それぞれの解釈が舞台上でどのように交わり、融合していくのか——見届けずにはいられない、魅力的な試みです。

“新たな音楽劇”の創造

今回、岡田利規と藤倉大の協働は、テキストと音楽のどちらかが主となって創作するのではなく、テキスト執筆と作曲が同時進行で行われた。また、テキストと音楽は互いを叙情的に演出するためのものではなく、テキストと音楽の響きあいが重視される。このような協働により、演劇と音楽の関係性を更新する“新たな音楽劇”の創造を目指す。

2021年7月　クリエーションワークショップ

クリエーションワークショップは、東京の稽古場とロンドン在住の藤倉をオンラインで繋いで実施。俳優がテキストを読む様子を藤倉がリアルタイムで視聴し、その場で音楽を試しに流し、さらに岡田がテキストを書き換えていく、そしてまた俳優がテキストを読む……という作業を、10日間に渡って重ねていくことで、新たな方法論のかけらを見つけていった。

2021年11月　ワークインプログレス公演

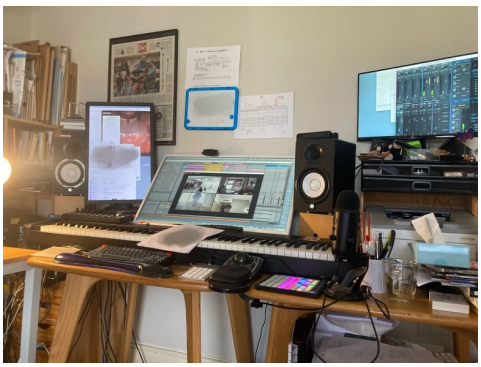
タワーホール船堀（東京）で開催されたワークインプログレス公演では、ある一つの場面の上演を通して方法論を検討・共有し、創作の基盤をつくりあげていく過程を公開した。ワークショップ同様、藤倉はロンドンからオンラインで参加、同じく新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で来日が叶わなかったクラングフォルム・ウィーンは、チェルフィッチュの〈映像演劇〉の手法を用いて共演した。さらに、アンサンブル・ノマドによる生演奏との共演も行なった。生演奏が俳優のパフォーマンスに与える影響が顕著に現れ、音楽とパフォーマンスの可能性が広がった。

ワークインプログレス公演時の様子：
・記録映像（THEATER for ALLで配信中）： https://theatreforall.net/movie/chelfitsch_work-in-progress_wien
・ステージナタリー特集記事（岡田+俳優インタビュー）：https://natalie.mu/stage/pp/chel_fujikura
・ONTOMOレポート（岡田+藤倉インタビュー）：https://ontomo-mag.com/article/report/chelfitsch-okada-fujikura

撮影：加藤和也

2022年4〜11月　クリエーションワークショップ

2023年3月からのクリエーションに先立ち、藤倉の楽譜づくりおよび岡田のテキスト執筆のために、20回超のワークショップを実施。2021年のクリエーションワークショップ同様、藤倉はオンラインで参加。岡田がテキストを執筆し、それを俳優が動きを交えながら発する姿を視聴した藤倉が、ロンドンの自宅でその場で即興で楽曲を制作し試す、そして岡田がテキストをブラッシュアップする、という試行錯誤が重ねられ、楽譜および脚本第一稿の完成に至った。



プロフィール

© 宇壽山喜久子

岡田利規（演劇作家、小説家、チェルフィッチュ主宰）

2007年にチェルフィッチュ『三月の5日間』で海外進出を果たして以降、独特な言葉と身体の関係性による方法論や、現代社会への批評的な眼差しが評価され、世界90都市以上で作品を発表。16年以降、欧州の劇場レパートリー作品の作・演出も継続的に手がけ、『The Vacuum Cleaner』（20年/ミュンヘン・カンマーシュピーレ）が毎年ドイツ語圏でそのシーズンに上演された約400の作品の中から“注目すべき10作品”を選出するベルリン演劇祭「Theatertreffen」に選出。『Doughnuts』（22年/タリア劇場）も同演劇祭に選出されるという快挙を成し遂げた。
ダンサー、ミュージシャン、美術家、ラッパーなど、様々な分野のアーティストとの協働も多数。近年は活動の幅をさらに広げ、能のフォーマットを用いた作品として『NŌ THEATER』（2017年）、『未練の幽霊と怪物―「挫波」「敦賀」―』（2021年）を発表。歌劇『夕鶴』（2021年）でオペラの演出を、木ノ下歌舞伎『桜姫東文章』で歌舞伎演目の脚本・演出を初めて手がける。

主な受賞歴：
2005年　『三月の5日間』第49回岸田國士戯曲賞
2008年　小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』第二回大江健三郎賞
2020年　『プラータナー：憑依のポートレート』第27回読売演劇大賞 選考委員特別賞
2021年　『未練の幽霊と怪物―「挫波」「敦賀」―』
　　第72回読売文学賞 戯曲・シナリオ賞、第25回鶴屋南北戯曲賞
2022年　小説集『ブロッコリー・レボリューション』第35回三島由紀夫賞、第64回熊日文学賞

© Alf Solbakken

藤倉大（作曲家）

大阪生まれ。15歳で単身渡英しベンジャミンらに師事。オペラ作品はこれまでに3作品発表し、2015年、最初のオペラ《SOLARIS／ソラリス》がパリ・シャンゼリゼ劇場にて世界初演され、国内外で高く評価された。演奏はアンサンブル・アンテルコンタンポランと、藤倉の師であるピエール・ブーレーズが創設したIRCAM（フランス国立音響音楽研究所）の電子音楽によるライヴ・エレクトロニクスで、藤倉自らもエレクトロニクスの演奏に加わった。2020年にはオペラ《アルマゲドンの夢》を新国立劇場で世界初演。数々の音楽誌でその年のオペラ上演におけるベストに選出された。
近年の活動は多岐に渡り、実験的なポップスやジャズ、即興の世界のアーティストとのコラボレーションも多数。坂本龍一との共同作曲作品は白寿ホールで世界初演され、デヴィッド・シルヴィアンとの共同作曲作品はシルヴィアンのアルバム「died in the wool」に収録されている。また、ノルウェーのジャズ即興アーティスト Jan Bang、 Sidsel Endresenとの共同作品は、Jazzland レコーディングスよりリリースされている。
2017年から、毎年東京芸術劇場で開催されている、世界中の“新しい音”が聴ける「ボンクリ・フェス“Born Creative Festival”」のアーティスティック・デイレクターを務めている。また、2016年および2019年の「ラ・フォル・ジュルネTOKYO」内の、藤倉大キュレーター公演は満席御礼の成功を収めた。
世界中の演奏家からの新作依頼を実現するにあたり、Skypeなどで演奏家とコミュニケーションをとりながら、その楽器や演奏家の特徴を生かした作曲を進めている。
https://www.daifujikura.com

主な受賞歴：
1998年　セロツキ国際作曲コンクール優勝（当時最年少）
2004年　ロイヤル・フィルハーモニック作曲賞
2005年　国際ウィーン作曲賞（クラウディオ・アバド作曲賞）
2017年　ヴェネツィア・ビエンナーレ音楽部門銀獅子賞
2019年　『蜜蜂と遠雷』劇中オリジナル楽曲「春と修羅」第43回日本アカデミー賞優秀音楽賞
2023年　《尺八協奏曲》尾高賞（「尾高賞」4度目の受賞）

© Tina Herzl

クラングフォルム・ウィーン（アンサンブル）

1985年に作曲家のベアート・フラーによって設立された、トップレベルのソリストで構成される現代音楽のアンサンブル。世界10カ国からの音楽家24名がメンバーで、世界中で年間80回以上の公演を行っている。
これまでに約600作を世界各地で初演し、90以上のCDアルバムをリリースし、数々の賞を受賞するなど、長年にわたり功績を挙げ、音楽史にその名を刻んできた。2020年よりペーター・パウル・カインラートがディレクターを務めている。

プロフィール

出演

青柳いづみ

©篠山紀信

2008年『三月の５日間』ザルツブルグ公演よりチェルフィッチュに参加。2007年よりマームとジプシーに参加、以降両劇団を平行し国内外で活動。近年の主な出演作にチェルフィッチュ『消しゴム山』『消しゴム森』、金氏徹平『tower（THEATER）』、マームとジプシー『Light house』『cocoon』など。漫画家・今日マチ子との共著『いづみさん』（筑摩書房）、朗読で参加している詩人・最果タヒの詩のレコード『こちら99等星』（リトルモア）が発売中。

朝倉千恵子

チェルフィッチュ『三月の５日間』リクリエーション、ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー＝レイ『ショールームダミーズ#4』、ロロ『いつだって可笑しいほど誰もが誰か愛し愛されて第三小学校』、ヌトミック『ぼんやりブルース』、市原佐都子(Q)『妖精の問題デラックス』の作品に俳優として参加。また自身でもパフォーマンスや映像作品を制作している。

大村わたる

1988年1月1日生まれ、奈良県出身。劇団「柿喰う客」に所属。2016年より平田オリザが主宰する劇団「青年団」にも入団。劇団以外の主な出演作には、『東京原子核クラブ』、劇団口字ック『掬う』、木ノ下歌舞伎『三人吉三』、岡崎藝術座『+51アビアシオン，サンボルハ』、KAAT神奈川芸術劇場プロデュース『ビビを見た！』、MONO『隣の芝生も。』などがある。 映像作品では、ドラマ『SUPER RICH』、『カラフラブル』、『MIU404』、『あなたの番です』などに出演。

川﨑麻里子

©渕野修平

1984年生まれ、神奈川県出身。ENBUゼミナール卒業後、2013年より鎌田順也主宰ナカゴーに所属。主な出演はヒップホップ的手法が特徴の東葛スポーツ『パチンコ（上）』、『ユキコ』、今泉力哉と玉田企画『街の下で』、ほりぶん『かたとき』など。チェルフィッチュには『スーパープレミアムソフトWバニラリッチ』、『スーパープレミアムソフトWバニラリッチソリッド』、『渚・瞼・カーテン チェルフィッチュの〈映像演劇〉』に出演。

椎橋綾那

埼玉県出身。舞台を中心に活動。五代目東家三楽の弟子、富士綾那として浪曲師としても活動。チェルフィッチュには『スーパープレミアムソフトWバニラリッチソリッド』、映像演劇『風景、世界、アクシデント、すべてこの部屋の外側の出来事』、映像演劇『ニュー・イリュージョン』などに出演。オフィススリーアイズ所属。

矢澤誠

©渕野修平

1972年生まれ、福島県出身。NODA・MAP、宇宙レコード、ニブロール、ミクニヤナイハラプロジェクト、カムカムミニキーナ、安藤洋子プロジェクト、遊園地再生事業団、カンパニーデラシネラ、オフブロードウェイミュージカル『リトルショップ・オブ・ホラーズ』などの作品に出演。チェルフィッチュには『私たちは無傷な別人である』より参加。『地面と床』『スーパープレミアムソフトWバニラリッチ』『消しゴム山』などに出演。

公演概要

チェルフィッチュ × 藤倉大 with クラングフォルム・ウィーン
『リビングルームのメタモルフォーシス』

ウィーン公演

日程：2023年5月13日(土) ～15日(月)　各回20:30
会場：Halle G im MuseumsQuartier
言語：日本語（ドイツ語、英語字幕）
ウェブサイト： https://www.festwochen.at

ハノーファー公演

日程：2023年5月19日(金) ～20日(土)　各回19:30
会場：DHC Halle Hannover
言語：日本語（ドイツ語、英語字幕）
ウェブサイト： https://kunstfestspiele.de

クレジット

作・演出：岡田利規
作曲：藤倉大
出演：青柳いづみ、朝倉千恵子、大村わたる、川﨑麻里子、椎橋綾那、矢澤誠
演奏：クラングフォルム・ウィーン (Lorelei Dowling, Jacobo Hernandez Enriquez, Benedikt Leitner, Florian Müller, Dimitrios Polisoidis, Sophie Schafleitner, Bernhard Zachhuber)

音響：白石安紀、石丸耕一
照明：髙田政義（RYU）
衣裳：藤谷香子（FAIFAI）
美術：dot architects
ドラマトゥルク：横堀応彦
技術監督：川上大二郎（スケラボ）
舞台監督：湯山千景
演出助手：守山真利恵

クリエーションワークショップ：
アンサンブル・ノマド（演奏）、
辻本達也（カヴァー）、
永見竜生［Nagie］（サウンドデザイン）

プロデューサー：水野恵美（precog）、黄木多美子（precog）
プロダクションマネージャー：武田侑子
アシスタントプロダクションマネージャー：遠藤七海、平野みなの
アドバイザー：山口真樹子

英語翻訳：アヤ・オガワ
ドイツ語翻訳：アンドレアス・レーゲルスベルガー

宣伝美術：岡﨑真理子（REFLECTA, Inc.）

【ウィーン・ハノーファー公演】
音響オペレーター：遠藤剛、松葉燎真（MRD）
照明オペレーター：葭田野浩介（RYU）

委嘱： Wiener Festwochen
製作：Wiener Festwochen、一般社団法人チェルフィッチュ
共同製作：KunstFestSpiele Herrenhausen、Holland Festival
企画制作：株式会社precog
協力：オフィススリーアイズ、KAJIMOTO、株式会社キューブ、ナカゴー、急な坂スタジオ、山吹ファクトリー、公益財団法人セゾン文化財団、d&b audiotechnik GmbH & Co. KG.

助成：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京（ウィーン公演）、公益財団法人野村財団（ウィーン、ハノーファー公演）

ARTS COUNCIL TOKYO

NOMURA 野村財団

#チェルフィッチュ23年新作
チェルフィッチュでは、2023年に新作２作品の創作・発表を予定。
随時、チェルフィッチュSNS・ウェブサイトにてお知らせします。乞うご期待！

１）チェルフィッチュ × 藤倉大 with クラングフォルム・ウィーン
『リビングルームのメタモルフォーシス』

２）ノンネイティブ日本語話者との演劇プロジェクト　公演
［詳細情報、23年6月頃公開予定］